カンキツにおけるツマグロハギカスミカメの被害

1．はじめに

関前村のカンキツ園で、ツマグロハギカスミカメが新発生し、このほどその被害が初確認された。

この害虫は、西日本に広く分布し、ハギ、シイ、カラスザンショウ、温州みかんなど多くの植物からの採集記録がある。ただし、温州みかんでは、「新芽を加害した事例がある。」との記録がある程度で、詳しい生態や被害の様子については不明である。ここでは、本種が確認された経緯や虫の形態及び被害状況について紹介する。

2．発生確認の経緯

関前村岡村島の一部の温州みかん、甘夏等カンキツ園で、平成13年の発芽期に、新梢（3～4㎝長）が落ちる被害がみられ、平成14年には同様の被害が拡大した。そこで、平成15年4月23日に、新梢に寄生しているカスミカメ類幼虫を採集した。羽化させた後、愛媛大学農学部の大林教授に同定を依頼したところ、本種であることが確認された。

3．被害の再現試験

平成15年4月23日に幼虫10頭を採集し、いよかんポット苗に48時間接種した。その結果、接種区では8.9％花蕾や新梢の落下があり（写真1）、対照区では同部の落下率が0.5％であった。この接種試験結果と関前村での被害状況とは酷似しており、関前村での新梢が落ちる被害は、本種の加害によるものであると判断された。

写真1　花蕾や新梢の落下（48時間接種）

4．虫の形態

成虫の体長は、4.5㎜内外であり、体色は淡褐色で、頭部中葉、革質部や楔状部の先が暗化する。また、後脚腿節部が紅色なのが特徴である（写真2）。終齢幼虫の体長は3.0㎜内外であり、体色は全体的に淡緑黄色である（写真2）。

写真2　ツマグロハギカスミカメ

5．被害の追跡調査

平成15年5月12日に、同島の温州みかん等を調査した結果、無防除の4園（約45ａ）で、本種の発生を確認した。本種が寄生していた樹では、新梢が落ちる被害の他に、新梢に黄色の小斑点があき奇形になる症状、さらに、茶褐色の小さな穴があく症状や新梢の先端部分が黒くなる症状（写真3）を確認したため、これらの症状についても、本種の加害が原因と推察された。

写真3　現地での各種症状

6．防除対策

アドマイヤーフロアブル4,000倍、アルバリン顆粒水和剤2,000倍を、発芽期（芽が約3㎜伸長時）に散布した園では被害がみられないことから、カメムシ類に適用のある農薬を散布すれば防除は可能と思われる。

（虫害班　主任研究員　金﨑秀司）

編集発行
愛媛県立果樹試験場
〒791-0112 松山市下伊台町1618　TEL 089-977-2100　FAX 089-977-2451